

令和7年度 第2回 静岡市上下水道事業経営協議会 会議録

1 日時 令和7年7月25日（金） 15:00～16:30

2 場所 静岡市上下水道局庁舎 7階71会議室

3 出席者

（1）委員（敬称略）9人出席/11人全体

鈴木会長、小泉副会長、狩野委員、中井委員、橋本委員、

濱田委員、原田委員、堀田委員、横山委員

（欠席）大石委員、竹内委員

（2）上下水道局職員

大石上下水道局長、

花村局次長兼経営管理部長、石野水道部長、藤田下水道部長、

川口上下水道総務課長、小林参与兼上下水道経営企画課長、水島上下水道経理課長、秋山参与兼
お客様サービス課長、

石原参与兼水道計画課長、瀧戸参与兼水道建設・維持課長、角谷水道施設課長、山本中山間地水道
課長、浅井水質管理課長、山下水道事務所長、鎌田水道維持担当課長、新庄清水水道施設担当課長、
望月水道部主幹

石上参与兼下水道計画課長、松田下水道建設課長、稲葉下水道維持課長、山本下水道施設課長、
杉山水道事務所長、河野葵・駿河浄化センター担当課長、山上清水浄化センター担当課長

（3）協議会事務局職員

小林参与兼上下水道経営企画課長 外5名

4 傍聴者 報道7社、関係団体2者

5 内容

（1）開会

（2）議題

① 第5次中期経営計画の改定について

事務局から説明

資料1 第5次静岡市中期経営計画 事務事業個票の改定概要（当日差替）

（当日委員配付） 第5次静岡市上下水道事業中期経営計画

【小泉副会長】

- ・行政評価関係に30年以上携わっているので少し意見を。この活動指標のところ、実施内容というのは何を実施するかを書くところだと思うが、例えばこの3ページの水道管の地震対策は、今までは「耐震管の耐震化工事」と書いてあって、今度は「水道管が耐震化されている重要施設の数」となっている。これは指標の説明になっている。同じように、5ページの下水道管の地震対

策、11 ページの水道管・施設の漏水対策、12 ページの企業債残高の適正な管理についても、実施内容でなく、活動指標が記載されている。不統一であると、混乱するので、今後検討していただいた方がよいと思う。

→【事務局】記載方法を見直していく。

【狩野委員】

・1 ページ一番右側のところ、組織機構改正で下水道区域内の浸水対策に係る計画部門を上下水道局から建設局移管とあるが、この計画部門を建設の方に移管することによって、予算的な裏づけというのは、どのくらいの規模で流れていったのか。

→【下水道計画課長】予算の細かい数字は後ほど回答する。計画部門が建設局の方へ入り、それ以外の例えば設計や工事については、今まで通り上下水道局で実施をしている。

【下水道計画課長】

・建設局に移管した予算は、約1億2千万円余。

【狩野委員】

・移管は、組織の枠を超えて横断的に皆さん仕事をしていこうという趣旨のもとで行われたのか。

→【下水道計画課長】はい。浸水対策については、建設局河川課で河川の氾濫対策、下水道部で内水氾濫対策をやってきた。それを流域治水一体ということで建設局のほうで計画を一体的に実施していこうということで変更している。

【濱田委員】

・各個票に「避難所」という表現があるが、これは大きな範囲を示してしまうため、できれば「指定避難所」などとした方がよいのではないかと。

→【上下水道経営企画課長】市で指定している指定避難所を指しているため、表現を見直していく。

【堀田委員】

・9 ページの「水道管の更新」では、AI 技術を活用しているが、更新の延長や更新率が減ったというのは、まだそんなに直さなくていい管が多いという理解でよいか。

【水道計画課長】

・直す部分が減るという形ではなく、耐震化事業でも管を新しいものに替えるため、老朽化の対策になるということで、それも含めている。

【堀田委員】

・耐震化で更新する場合はそれでカウントされて、純粋な老朽化による更新っていうのと数字を分けているという理解でよいか。

【水道建設・維持課長】

・個票にも記載しているとおり、管の更新率には地震対策による耐震化の延長を含むという形で、計算している。

【堀田委員】

・一応理解はしたが、片方は延長での管理をやめて、重要施設の耐震化された数というのは、しっくりこない感じがするが、一応了解した。

【上下水道局長】

・今まで水道は、老朽化対策ということでやってきた。今回見直ししたのが、重要拠点を結ぶということ。一つの線に繋がっておらず、歯抜けのような状況になっていた。延長をいくらやっても取水から排水まで繋がらないのでは意味がないということで、今回見直し、耐震化では繋がっている箇所ということとし、老朽化の部分につきましてはあくまでも延長を更新していくという形での数値の設定をさせていただいている。事業によって、成果のところの書き方が異なっているということでご理解いただきたい。

【堀田委員】

・理解した。

【事務局】

・本日意見などを出しきれてない場合があると思うが、意見提出用紙に記載し、ご意見をいただきたい。本日と後日いただいたご意見を踏まえ、計画の改定に向けて進めていく。

② 水道料金・下水道使用料について

上下水道経理課長から説明

資料2：20250718 市長定例記者会見資料 水道料金、下水道使用料改定に向けた議論の開始

資料2-1：R7年度協議会料金改定スケジュール（当日配付）

資料2-2：説明資料（当日配付）

【鈴木会長】

・今日は最初の説明だったので、今日ですべてということではなくて、継続審議になると思う。
・確認だが、事業計画、投資計画というのは、静岡市として確定されたのか、15年間でこれだけの耐震化、対策を行うということは、どこでいつ確認されたか。我々の協議会では、主として料金について、どういう形が妥当かということのをこれから検討していく。ただ、事業の投資計画がもう前提としてあればそれに向けてそれに合わせて料金を検討していく。その事業計画は、確定しているのか、という部分を確認したい。例えば事業計画を遅らせるとか、縮小することによって、料金への影響を与えることになるが、現状を聞きたい。

→【上下水道経営企画課長】

・昨年度能登半島地震の経験を踏まえ、投資計画の見直しを1年かけてやってきた。取水施設から排水施設まで、上下一体の選択的線の耐震化を検討し、この投資計画案を市長とも協議し、この計画は決定しているということになる。

【鈴木会長】

・そうしたら最初の資料2であった通り、投資集中期間は2025年から39年の間にその上の事業費、これだけを投資するという前提で、この協議会が進めるということでよいか。

→【上下水道経営企画課長】はい。

【小泉副会長】

・説明の内容の確認だが、5 ページのところ、建設工事費について、国交省の建設工事費デフレーターを参考にということだが、15 年間で 10% 上がるという見込みなのか、それとも、単年度に 10% ずつ上がる見込みなのか、確認したい。また、国交省の建設工事費デフレーターは、将来的な見込みまで出ているものか、それともただ過去のデータをもとにしたものなのか確認したい。

→【上下水道経理課長】

・後者、デフレーターの内容につきましては、確認をさせていただきたい。見込みについては、単年度ごと 10% で見込んでいるという計算になっている。

【狩野委員】

・上下水道の財政計画を設定するにあたって、静岡市の人口推計をどの程度勘案したか。

→【上下水道経理課長】

・静岡市で独自に示している人口集計の数値を使用している。社人研の推計より低めになっている。人口が減っていくということを前提に作成している。いまは 67 万 5 千人だが、2040 年までにいまの 83%、市全体で 56 万 3 千人となる見込み。

〈連絡事項（事務局）〉

- ・資料 4 は、令和 7 年 8 月 1 日（金）までに事務局宛て提出いただきたい。
（各項目への記入は任意、提出は必須）

確認

静岡市上下水道事業経営協議会会長

（署名） 鈴木 学
